

安全は労使でつくりあげるもの！

申
22
号

上越新幹線で発生した停電トラブル に関する緊急申し入れを行う



本部は5月14日に申22号「上越新幹線で発生した停電トラブルに関する緊急申し入れ」を行いました。申し入れ内容は以下の通りです。

- 1.輸送と保守作業の安全確保は、労使共通の課題として原因究明と再発防止のために相互に情報交換等連携をとりすすめていくこと。
- 2.上越新幹線において発生した停電トラブルの原因と対策について明確にすること。
- 3.異常時における即応体制を敷いている中においても、復旧に大幅な時間を要する事象が頻発していることについて、原因を明らかにするとともに、その対策を具体的に示すこと。

ゴールデンウィークの只中に発生した4月28日の上越新幹線での停電トラブルの事象では、長時間にわたり運転を見合わせ多くのお客さまにご迷惑をおかけする事態となりました。バックアップ設備や多客期における異常時対応体制をとっていましたが、運転再開には多大な時間を要し、駅や車内におけるお客さまへのご案内でも混乱する結果となってしまいました。

設備は技術開発による更新・切り替えを繰り返していますが、最終的に故障の復旧やメンテナンスを行うのは人です。人に技術力がなければ、このような事象を繰り返してしまいます。今回の事象に限らず、現場の声を聞いて対策を立てるべきですが、残念ながら職場では東労組を敵視し、安全衛生委員会などの議論の場で真摯な議論を行なおうとしない一部現場長がいるのも事実です。

また、ある支社の2019年度支社実行計画の社員配布資料の中で、ある地区の使命について「稼いで稼いで稼ぎまくること」と書かれています。結びに「守るべきはお客さま・社員の命・安全である」という旨が記載されていますが、「稼ぐ」を表立って掲げることは、JR西日本福知山線脱線転覆事故当時のJR西日本大阪支社が支社長方針の第一の柱として「安全」ではなく「稼ぐ」を掲げていたことと極めて同質であり、危うい状況ではないでしょうか？ 青年部員と安全について議論し、私たちが為すべきことは何か？守るべきものは何か？ということをご一度考えなければなりません！

上越新幹線の停電トラブルについて、現場の声を集約します！ 現場の意見をぶつけ、安全を現場からつくりだそう！